



# Alt-Focus GRAPH

十人十色のフォトストーリー

2014年12月 第4号

# 第7回アルトフォーカスフォトコンテスト受賞作品発表！

7回目を迎えた写真教室内のフォトコンテスト。受賞作品5点を発表します。被写体も捉え方も実に様々。アルトフォーカスらしく、それぞれの撮影者の個性が出た受賞作となりました。

受賞者の皆様には、株式会社ケンコーより、スリック三脚ライト224DX、スリック一脚ライティポッド100、ドライブレッシュ、株式会社ナガトモより、フォトブック無料クーポン券などが賞品として送られました。

## 第7回アルトフォーカス受講生作品展

会期：2015年2月4日(水)～8日(日)  
会場：目黒区美術館区民ギャラリー  
詳細：<http://www.alt-focus.com/exhibit/2015/>  
受講生24名＋講師の作品約90点の展示です。  
コンテスト受賞作品も一部ご覧いただけます。

### 最優秀作品賞

「前髪パツツンしてきたの」

中久保 久仁子

#### ■選評

視線、表情、構図、色彩、粒状性など、この作品のインパクトや雰囲気を出すための工夫の方向性にしっかりと統一感があります。往々にしてインパクトの強い写真にしようと意気込んで撮られた写真は、色彩など一部の要素を強烈にしようとするあまり、他の要素には配慮がっていないものもありますが、様々な要素のバランスの良さが見事だと感じました。撮影状況や被写体の人物と作者の関係にも想像が掻き立てられる一枚です。

#### ■受賞の言葉

モデルの女性は私の姪で、日頃何でも話せる近い存在。

仕事への不満や 家族との行き違い、終わりにかけていた恋、と様々な感情を抱えていた彼女が表参道の待ち合わせ場所に現れ、最初に発した言葉が「前髪パツツンしてきたの」でした。

私と彼女とのその場のリアルが 写真に写し込まれた気がします。



## 優秀作品賞

「聖五月」 山口 美智子

### ■ 選評

ピントを合わせたメインの被写体に対して、背景はあくまでサブ的な存在になりやすいですが、背景の選択の見事さがこの作品の魅力をおおいに高めてくれていると思います。背景の水面の柔らかくも不思議な描写と、手前の葉の鮮やかで繊細な描写のコントラストが素晴らしいですね。シンプルな被写体をシンプルに捉えて、完成度の高い作品にするのは難しいだけに強くひかれました。

### ■ 受賞の言葉

受賞に吃驚すると同時に嬉しく思います。春の陽気に誘われて出掛けた公園で、弾ける様な若緑の葉が、池に映る葉影にキラキラ輝いていました。水面の様相が素晴らしく、私を呼んでいる様な気がして撮らずにいられませんでした。これを励みに感動した物を写真に表現出来たらと思います。



## 優秀作品賞

「おかえり」 津端 穰治

### ■ 選評

頭上近くを通る飛行機を、思い描いた構図の中で捉えることは簡単ではなかったのでは、と想像します。遠近感のあるラインをうまく活かすことで構図に強い安定感とバランスが加わっています。撮影者の心情をシンプルに表現したタイトルが、硬質な印象の描写をうまく和らげていますね。

### ■ 受賞の言葉

羽田沖での船上撮影です。海面に真っ直ぐにのびる誘導灯めがけて次々と着陸してくる航空機を見ているうちに、まるで誘導灯が「おかえり」と力強く、そして優しく航空機を迎え入れている様に見えてきました。誘導灯を主題にすると決めた自分は夕陽が誘導灯と重なり、その傍らを航空機が通る瞬間を待ち撮影しました。賞に選んで頂きとても光栄です。

## 入選

「クリスタルトンネル」 本村 福江

### ■ 選評

面白さに気づいた視点が光る作品です。グラスに近づいて、画面のほとんどをグラスにした思い切りのよさが、写真を見る側を撮影者の視点に引き込む力に繋がっているのでしょう。特定の人が目立たず、反射によってたくさんの人がいるかのように見える点も面白いですね。

### ■ 受賞の言葉

友人と昼食の後振り返りました。お知り、ワイングラスの美しい様に思わずカメラを向けました。明暗の激しい上に人通りも多く設定を色々変え写しました。4回目で初めての入賞。幸せを心から喜びつつ励んでいきたいと存じます。



## 入選

「至福の時」 堀江 均

### ■ 選評

今にも雨が降りそうな雲の描写と小さくとらえた人物が、壮大とも言えるスケール感を作り出しています。作品全体に漂う暗めのトーンをタイトルが一変させてくれることによって、作品を見る側は被写体の人物と撮影者の心情に思いを馳せ、爽快な1枚にも思えてくのではないのでしょうか。

### ■ 受賞の言葉

風景を撮る時いつもは画面の中に人や人工物が写らないように撮っているのですが、この時は背景の雄大さと相まって釣り人のシルエットがあまりにも印象的でしたので、迷わずシャッターを切りました。

あまり先入観に捉われずにあるがまま自分の感性を受け入れる事によって、今までに無い素敵な写真がとれるのだと実感しました。

ステキ写真の秘密にせまる！

# あの受講生に会いたい

アルトフォーカスの撮影会では、皆さん様々なスタイルで撮影を楽しんでいます。その中でひととき、いつも多くの機材をお持ちの方がいて気になっていました。今回の『あの受講生に会いたい』では、その西岡さんにお話をうかがいました。

## Vol.4 西岡 さと子さん

### Profile Satoko Nishioka

神社仏閣めぐりが趣味で、歴史的な建物や古い町並みを美しく撮りたいと、3年前にはじめて一眼レフを購入。2012年10月、アルトフォーカスの講座を受講。商社勤務で忙しい出張の際も、行く先々で出会った人や風景や感じたことを撮り続けている。



広島音戸の瀬戸。「訪れた土地をバスで巡り、好きな場所を探して撮るのが好きです」



### 旅先で感じたことを写真で表現してみたい

—— うかがいたいことがたくさんありますが（笑）、まず、写真に興味を持ったきっかけを聞かせて下さい。

**西岡** 「旅行で訪ねた土地で、自分が思ったことや感じたことを表現できたらいいな」と思いました。また、もともと美術系専攻でしたのでアートや絵には興味がありましたが、それ以外のこと（写真）で『表現』してみたいと考えたのもきっかけです。

### —— アルトフォーカス参加のきっかけは？

**西岡** 最初はメーカー主催の講座に約一年間通いました。ところが、月に2回程度撮影会もはさんでるので、間があいて散漫になり知識が繋がらなくなってしまいました。ある旅行会社主催の撮影会で一緒になった方に、「凝縮して短期間で勉強したい」と話したところ、アルトフォーカスを奨められました。数か月後、運よく夜間の講座があって参加したのが2012年の

【はじめての一眼レフ1】です。続いていくつか受講しました。機能別にコンパクトにまとまっている講座で、ポイントを絞って学ぶことができ、色々ちりばめて聞いていたことを自分の中で整理できました。特に印象に残っているのは、ピントが面であるということ。『めからうろこ』の感覚で(笑)、それから意識して撮影に臨むようになりました。

## 思うように撮れなかった後悔から、撮影前の準備はしっかり

——旅行先で好きなところはありますか？

**西岡** 写真をはじめの前は、アジアやヨーロッパ、国内では京都や奈良などの歴史ある古い町並みが好きでした。また、マーケットなどのカオスな感じが好きでした。カメラを手にしてからは、ネイチャー系に興味がわいてきました。『寒い・重い・歩く』が苦手だったのですが(笑)、沖縄や北海道や裏磐梯などの自然を撮りに行くようになりました。カメラを持たなければきっと行かなかった自然の厳しい場所にも、『撮ること』を意識して旅するようになりました。

——重い荷物が苦手だったのに、撮影会でも一番の装備ですよ？(笑)

**西岡** 心配性なんです。「撮りたい場面でレンズがなかったら」と思うと、どんどん増えて(笑)、通常は2本、多い時は4本持って行きます。標準と広角と望遠のそれぞれズームに、マクロまたは単焦点。三脚は最初使っていませんでしたが、アルトフォーカスの三脚講座を受講してからは積極的に使っています。立て方や風が強い時の対策などを学んで、三脚が効果を発揮してくれるようになりました。なるべく三脚で撮って練習しています。

——同じ場所でもレンズを交換して色々な撮り方をされますか？

**西岡** はい。表現がまったく変わるのでおもしろいです。最近やっとレンズそれぞれの使い道を分けられるようになり、色々なレンズを持つことに意味が出てきました。だから持って行くものが増えてしまうんですね(笑)。

季節や時間を替えて何度でも行きたい場所がある

——お仕事柄、出張が多いそうですが、機材を持って行かれるんでしょうか？

**西岡** 1年半ほど前から出張先でも時々撮影するようになりました。出張が週末にかかる時は延泊して撮影することもあります。「この季節はここがよさそうだな」と考えると出張も楽しいです。関西が多く、広島や岡山や沖縄などにも行きます。前回の沖縄は、陶芸の里に行きました。事前に窯元を調べておいて、6月の暑い日に丸一日バスで訪ね歩きました。ひとりで撮っていると、家に入れてごちそうして下さったりする方もいるんですよ。

——土地の方と知り合うのも醍醐味ですね。出張で訪れた土地で【撮る視点】で好きな場所はありますか？

**西岡** 京都の大規模寺院の雰囲気が好きです。季節や時間を変えて何度も行きたいほどです。お寺の中は三脚を使えないので苦労しますが、逆に手持ちで瞬間の雰囲気を一緒に込めてスナップ的な写真を撮ります。



日差しが強い6月の沖縄。「丸一日かけて窯元を訪ねて撮りました」

南禅寺もいいですね。東福寺もいつ行っても素敵。大徳寺はそれぞれの塔頭の庭が凝っていて好きです。大原三千院や詩仙堂などにも。とにかく同じところに何度も行きます。帰宅して写真を見てがっかりして、「もう一回撮りたい!」と思ったりします。

## カメラを手にしたからこそ知った自然の素晴らしさ

—— もともと町並が好きで、今は自然も撮影されるのですが、どちらも楽しいですか？

**西岡** はい、今は何を撮っていても楽しいです。なるべくカメラを持って外出するようにしています。バス通勤ですので、早めに出て道々のんびり歩きながら、家や会社の近くを撮ることもあります。季節の飾りや赤ちょうちんや、時には猫を撮ったりもします。ミラーレスで、ノーファインダーで撮ることもあります。自然の風景は、「撮らせて頂いている」という思いがとても強いです。撮ること自体よりも『撮るために自然の在るそこに行くということ』に意義を感じます。自然の現象そのものが楽しく素晴らしいと思い、酔いしれてしまいます(笑)。カメラを持って自然を撮るようになって思えるようになったことです。そして、絵葉書になっているような有名な場所ではない風景をみつけると「ここにいられてよかったな」と思います。



「大好きな京都では、瞬間の雰囲気と一緒に込めながら、手持ちスナップで撮り歩きするのも好きです」

—— 海外も含めて、今後撮りたい場所はありますか？

**西岡** モロッコですね。明暗差がとてもある場所や、迷路のような町並みを撮ってみたいです。乾いた空気の町並みの光と影や、砂漠の街で暮らしている人を撮れたらいいなあ。日本だと、宗教行事を撮ってみたいですね。なかなか難しいですが。

**自分に課題を。次の作品展では組み写真に挑戦！**

—— 来年2月にはいよいよ受講生作品展ですね

**西岡** 組み写真に挑戦しようと思っています。組むことで広がる世界やストーリー性や、伝わるのが深く多面的になるということを意識して作品を作りたいと思います。「被写体が同じでも、多角的な撮り方をしたら組める」ということが解って、そういう表現を意

識した撮り方。自分で足かせをかけてみよう(笑)。また、プリントについても、もっと勉強したいと思います。少し前までは撮ることが楽しくて、撮って蓄積しているだけのデータでしかなかったけれど、作品に合わせて紙を選んで調整してプリントして作品を作り上げていくということや、作品を見返して組み写真として選ぶことをしっかりしたいと思います。

## 西岡さんへメッセージ

出張や旅行先でのお話をたくさんうかがうことができ楽しかったです。カメラを購入されてまだ3年ほど、とのことに驚きました。その短い期間に様々なことに挑戦されたんですね。受講生作品展で組み写真を拝見するのが楽しみです。

取材・文 = 飯島利枝子 撮影 = 田口裕子

# ミンガラーバー！ from Yangon

～ 桂川融己のミャンマー便り ～

※ ミンガラーバー=ミャンマー語の「こんにちは」

## 連載第2回 パゴダのある街

ミンガラーバー、ミャンマーのヤンゴン在住の桂川です。昼間は35度を超える日も多いですが、夜は比較的涼しく20度近くまで気温が下がります。ヤンゴンも冬モードに突入です。日本の冬のような厳しさは一切ありませんが(笑)。

今回ご紹介する「パゴダ」とは仏塔のことで、塔自体がお釈迦様の化身と考えられ礼拝の対象となっています。パゴダを建てるのが、「人生最大の功德」とされているため町中に多くのパゴダが建てられているのです。

パゴダに入る時には履き物を脱ぐのがルール。靴はもちろん、靴下やストッキングさえも許されていません。このルールは、外国人であっても同様。パゴダは、それだけ神聖な場所なのです。

### シュエダゴン・パゴダで祈る人々

「シュエ」は、ミャンマー語で金の意味。その名の通り眩しいほどの金色の仏塔はヤンゴンのランドマークです。

時折見掛けるのが、こうして集団で祈りを捧げる人々の姿。黄金色のパゴダとそこに向かって熱心に祈りを捧げる集団の絵はいつ見ても絵になります。





### シュエダゴン・パゴダの夜と昼

夜の金色は、まるでつくられたかのような色合いです。私には、涼しい夜のシュエダゴン・パゴダが好きです。

昼間の金色は、太陽光の反射を受けて目が痛いほどの輝きを放ちます。

ミャンマーでは多くの人が金銭を寄付する習慣があり、仏像に金箔を貼る行為も徳を積むことにあたるため、パゴダは眩しいほど金色に輝いているのです。



### ダデュンジュの満月

年に1度のダデュンジュの満月の日のシュエダゴンパゴダ。ロウソクをともし事でお釈迦さまが天界から帰ってくる日とされ、彼の足下を照らす意味合いだとか。ヤンゴンでは日々の生活でもロウソクは重宝します。停電も多いので(笑)。

この日のシュエダゴン・パゴダは普段は8,000Kyat(≒800円)の入場料が無料。おめでたい日のため、多くの人がシュエダゴン・パゴダに押し寄せ、どこもごった返していました。これだけ人がいるシュエダゴンは見た事がありません。





### 雑踏とパゴダ

ヤンゴンの街の中心に位置するスーレーパゴダ。近くにバス停も多く、パゴダのすぐ目の前の道をバスがけたたましい音を鳴らし豪快に駆け抜けていきます。パゴダに向かってお祈りを捧げる人とのコントラストがなんともいえません(笑)。



### 夜中のパゴダ

夜中になると、スーレーパゴダの放つ光はさらに存在感を増します。闇の中に浮かび上がるかのようにドーンと構えているスーレーパゴダが見えると、家が近付いて来た事を感じ、なんとも安心します。



### 祈りを捧げる子供

ミャンマー第2の都市マンダレーの寺院での光景。5歳くらいの男の子でしょうか？一生懸命に祈りを捧げています。礼儀正しく祈りを捧げるシーンを見て、つついシャッターを切りました。熱心さが伝わりますでしょうか？近くに親もおらず、1人で祈りを捧げているのです。

### プロフィール：桂川 融己

1984年2月生まれ。自然豊かな岐阜県下呂市出身。日本生命保険相互会社にて7年9ヶ月の勤務の後、退職し現在はミャンマーに渡り、現地での人材紹介業に従事。渡航直前の



2013年11月、アルトフォーカスの「はじめての一眼レフ」を受講。ブログ「From Yangon」にて写真や現地的情報を発信中。 <http://melt-myself.com/>

# 写真家・秋野深の素顔に迫る

Vol.2 いざ西へ東へ～旅と表現の先に見えたもの～

こんにちは。アルトフォーカス受講生の山本です。前号の受講生の太田さんから熱いバトン(?)を受けて、秋野先生にインタビューすることになりました。今回は「会社員生活にピリオドを打ち写真家をめざした日々」を懐かしく振り返っていただきたいと思います。

**とにかく撮って、書いて、発表!**

**山本** 20代後半のイラン旅行が転機になり、フリーランスとして写真と文章による表現者を目指す決心をした— そこまでが前回のお話でした。会社をやめてすぐ写真の仕事を?

**秋野** いやいや、そんなにうまくはいきません(苦笑)。誰かに師事するとかアシスタントになるとかのツテもなく、どうやって写真の仕事を得るのかもわからないところから始めましたし、そもそも自分が写真を撮っていることすら誰も知らないわけです。まず写真を発表しないと、そのためにはまず撮らないと、書かないと!単発バイトをしては海外へ行ってという繰り返しでした。個展も年4回くらい、それこそ「スペースあればさせてください」と幼稚園の空きスペースでもやりました(笑)。発表しないと誰にもしてもらえませんから。

**山本** 撮影はどんなところへ行かれたのでしょうか?

**秋野** アメリカ、シルクロードがメインでした。アメリカ西部には毎年でかけ、シルクロードでは6週間か

けてタクラマカン砂漠の周辺を1周したりとか。そこでの体験が写真や文章での表現にそのままつながっていたと言えます。その他2か月かけて東南アジアをまわったりしました。

**山本** アメリカとシルクロード。全然タイプが違うように見えます。

**秋野** そうですね。でもアメリカの西部・中西部などは雄大で乾いた土地が広がって…と風土的に(シルクロードと)似ているところもありまして。シルクロードは小さい頃NHKでシルクロードの番組を見てからの憧れの地。対してアメリカは、会社員時代に仕事で数か月滞在したり、1997～8年は住んでいたりで、海外でも自分にはなじみがある土地でした。

**山本** 憧れの地と行き慣れた土地。先生の作品を拝見していると、被写体に対してしなやかな印象を受けます。

**秋野** アメリカは雄大な自然を撮りに行く場所、シルクロードは自然もですが、文化の複雑さや民族色に惹かれるところが大きいです。もともとどこかひとつということではなく、自分の好奇心を大切に活動を広げていきたいと思っていましたし、「これだけが専門で他は知りません」というふうに視野の狭い状態にはあまりなりたくなかったです。

**山本** ところで会社員の頃は何をされてたんですか?

**秋野** 何度か転職しながらいろいろなことをしました。



システムコンサルティング系、スポーツ系・・・など、あと無職期間もあります。学生のときから、20代のうちは全然関係のない仕事を何種類か経験したいとは思っていたんですね。

**山本** いずれは起業してやる!という感じだったのでしょうか?

**秋野** いや(キッパリと)、その発想はなかったですね。自分は全くそういうタイプではないと思ってましたね。あと自分がどこにも属さずにいることがイメージできなかったです。フリーランスというのは、バックパッカーの旅で得たことを写真や文章で発信して反応があり、その楽しさに目覚めてやりたいことが明確になったときに初めて出てきた選択肢でした。

**原点となった一冊**

「とにかく2年は必死にやってみよう」-- そう決意して踏み出した写真家への道。興味が趣くまま海外へ行き、写真を撮りためてはWEBサイトを充実させ、個展を開く。そんな発表の場から、少しずつ写真の仕事が舞い込みだした矢先、転機が訪れたとのこと。

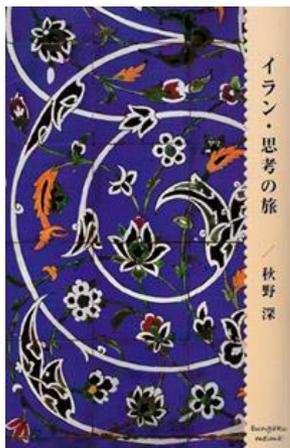
アメリカ・アリゾナ州のThe Wave到達の記念ショット。  
あまりにすごいところだったので珍しく自分撮り(笑)。

**山本** 「イラン・思考の旅」これが前号のインタビューでも触れられた転機の本ですね。

**秋野** 会社を辞めてそろそろ2年経つ頃、ネット上の文学賞へ、書き溜めていたイランの紀行文を応募したところ、紀行文部門の大賞をいただけました。オンデマンド出版になるという副賞で1冊の本にもなりました。

**山本** 仕事の依頼が増えて、人脈も広がったのでしょうか。

**秋野** はい、自分にとっては大きなきっかけでした。今は「写真家」という面が前に出ていますが、この頃



### 「イラン・思考の旅」

1週間ほどの旅行とは思えない濃密な体験や出会う人との対話が印象的。現在は電子出版「はじめてのイラン紀行 ラーハな時に身をゆだね」(アマゾンキンドル)で読むことができます。

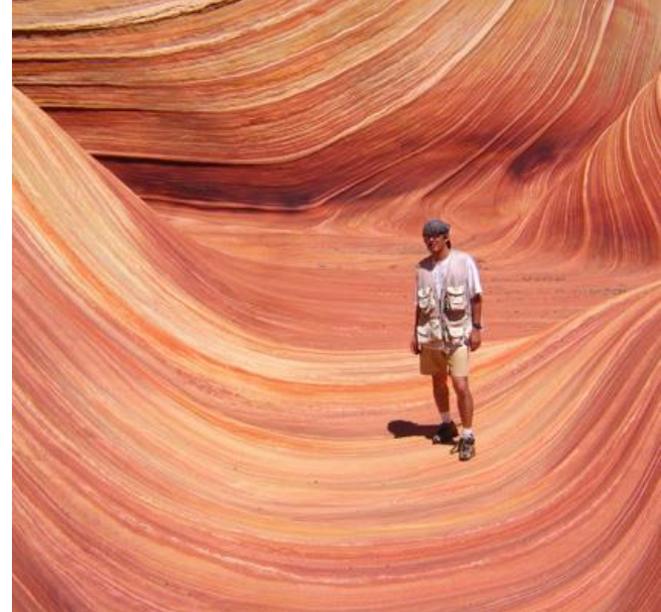
は自分の中では写真と文章と同じくらい、いや、どちらかというと文章の方がややウエイトが大きかった気がします。

**山本** その後のフォトエッセイの仕事とは、おもにどんなものだったのでしょうか？

**秋野** アメリカ、シルクロード、東南アジアでの旅について写真と文章でつづるもので、とある財団法人の会報誌やWEBマガジンでの旅のフォトエッセイの連載を担当しました。取り上げるテーマや切り口まで100%任せていただけていました。それで、連載を読んだ人から声がかかって次の新しい仕事をいただいたりとか。そうしていくうちに写真と執筆の仕事だけで何とか生活していけるようになりました。

**山本** ほかに印象的な仕事は、どんなものがありましたか？

**秋野** 初めて雑誌の巻頭グラビアに、アメリカのバリアキャニオンのThe Wave や東南アジアなどの写真が載ったことです。それまでは、書店に行って雑誌を見ても、「どうやったらこういう本に写真を載せてもらえるんだろう？」なんて不思議に思っていたので。自分の作品が掲載された時は感激しましたね、本屋に行って本を開いたら、本当に載っていて(笑)。今でも思うのが、「プロの写真家になるには、とにかく結果を残すこと。そしてその積み重ねしかない」と。何か資格があれば写真家になれるわけではない。それが難しいところでもあります。自分のように全く知らないで飛び込んだ者にとってはかえってそれがよかったと思っています。



### The Wave が運んだ、もうひとつの“波”

**山本** 雑誌グラビアにも掲載されたバリアキャニオンのThe Waveは新しい仕事のチャンスになったそうですね。

**秋野** ええ。そもそもこのThe Wave、今でこそ情報はたくさんありますが、当時は、抽選で1日20人、それも半年前くらいからネットで予約した人しかこの地域に入ることが許されず、運良く入れてもたどりつけず、砂漠の中で遭難しかかって怖くなって途中で断念する人もいたようなところでした。

**山本** 魅力的ですが一人で行くにはかなりの勇気がいりそうです。

**秋野** 当時インターネット上でこの写真を載せていたのは日本人では極少数だったと思います。ちょうどクラブツーリズムの企画担当者が、ここでぜひツアー

を組みたいということで、私に問い合わせが来たんです。お会いして、ここでツアーを組むことは難しいけれどこの近くには他にこんな珍しい撮影地があります…など情報提供をするうちに、アメリカ撮影ツアーの同行講師を、いう話になりました。

**山本** アルトフォーカスには、クラブツーリズム主催の先生の撮影ツアーへの参加がきっかけの方も多く在籍されています。The Waveの写真は、アルトフォーカスの多くの受講生と先生を結んだ1枚でもあるわけですね。

### この仕事をずっと続けていけたら幸せ

文学賞受賞作品、雑誌のグラビア、フォトエッセイを拝見しながらのインタビュー中、常に前向きで全くネガティブな言葉が出てこないのが、少し斜に構えた質問をぶつけてみました。

**山本** お話をうかがっていると、写真家になるまで順風満帆なお見受けします。

**秋野** いや、会社を辞めた後の「2年間」も実際は仕事を全くできていない時間の方がはるかに長いわけ。雲をつかむような中で進んできたようなものです。迷いはなかったですが、この先何も写真の仕事がなかったらどうしようという悶々とした感じは常にありましたね。平日の昼間に近所の公園でゴロゴロして「何やってんだろうなあ」とか、写真家になるなんて言ったのに、この日常はなんなんだとか（笑）。写真家として最初はプロフィールに何も書くことがなかったのが、一行ずつ増えていったことがうれしかったです。

**山本** やめたい！と思ったことはなかったのでしょうか？

**秋野** それは不思議となかったですね。会社員時代は常に「自分はどんな業界でどんな仕事をしているのが向いているんだろう」と漠然と思っていました。でも執筆を含め、写真家になってからは、「この仕事ではなくて自分は他に何に向いているのか」と思うことは今のところ一度もなく、色々と広げていくのはもちろんですが、この仕事を続けていけたらどんなにいいだろうと思っています。

近所の公園でゴロゴロしていた秋野先生が想像できませんが（笑）、エピソードに時折はさまれる本音の部分も楽しいインタビューでした。今は写真家・執筆家として、約10年前のシルクロードと東南アジアの旅のフォトエッセイの電子書籍化に取り組まれているとのこと、ぜひそちらも拝読したいと思いました。今日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました！

取材・文＝山本玲子 写真＝宮澤範子



### 写真教室アルトフォーカス

写真家・秋野深による個人運営の写真教室です。都内にて、主に一眼レフ、ミラーレス一眼ユーザー向けの講座、撮影会などを開催しています。土日または平日夜開催で、テーマ別に1～3回で終了する講座が中心です。

ウェブサイト：<http://www.alt-focus.com>

Facebook：<https://www.facebook.com/altfocusphoto>

お問合せ：[alt-focus@alt-focus.com](mailto:alt-focus@alt-focus.com)

### シニアのための写真教室アルトプリズム

2015年から本格始動するシニアのための写真教室です。平日午前中～夕方開催で、基礎からゆっくりと進めていきます。

ウェブサイト(仮)：<http://www.alt-prism.com>

お問合せ：[ap@alt-prism.com](mailto:ap@alt-prism.com)

### 秋野 深(Jin Akino)

1970年生まれ。福岡県出身。会社勤務の後、写真家・執筆家に転身。アジアやアメリカの自然風景、建築物、人々の生活や文化、日本の東北地方(鳥海山麓)の自然を撮影。クラブツーリズム海外国内撮影ツアー同行講師、写真講座講師。地方自治体への地域活性化事業への参画など多方面で活動。

JATA世界旅行博2008、JATA旅博 2011(於：東京ビッグサイト)にて講演。

2008年、ウズベキスタンの文化歴史博物館にて「独立17周年記念展示 秋野深写真展」を開催。

2012年、NHK BSプレミアム『極上美の饗宴』の「シリーズ平山郁夫の挑戦(1)執念のシルクロード」にゲストナビゲーターとして出演。

2014年、第7回タシケント国際フォトビエンナーレ(ウズベキスタン)招待作家。

近著『はじめてのイラン紀行 ラーハな時に身をゆだね』をアマゾンKindleより電子出版。

ウェブサイト：<http://www.jinakino.com>

Facebook：<https://www.facebook.com/jinakinophoto>

## 受講生ギャラリー「身近な秋のひとつま」

アルトフォーカス受講生・岸田恵利子さんより埼玉県秩父郡と児玉郡で撮影された「身近な秋のひとつま」が届きました。寒い時期に咲く珍しい冬桜は、春に咲く桜とまた一味違った趣があるものですね。下記ページにてぜひご覧下さい。

<http://www.alt-focus.com/graph/04plus/>

## イベントレポート

### ■ファンケル銀座スクエア屋上ガーデンで撮影会！

6月の紫陽花ガーデンに続き、12月4日にローズガーデンでの撮影会を実施。雨模様の日でしたが、撮影時間中だけは降られることなく、カラフルで香り豊かなバラに囲まれて撮影することができました。



### ★ 受講生がフォトコンテストで金賞受賞！

New Roses Web×ファンケル 銀座スクエアの『バラのある風景』フォトコンテストで、アルトフォーカス受講生の深澤のぶえさんの作品が金賞を受賞されました。ローズガーデンの期間中に撮影された写真が対象で、応募点数241点の中の金賞です。おめでとうございます！受賞作品下記ページにてご覧下さい。

<http://newroses.sankei.co.jp/news/event/article/141120/evt0001-n1.html>

## 講師・秋野深からのお知らせ

### ■ウズベキスタンの国際フォトビエンナーレに出品

10月6-12日にウズベキスタンにて開催された第7回タシケント国際フォトビエンナーレ2014（ウズベキスタン芸術アカデミー主催）に招待作家として参加。

「External & Internal」という展示タイトルで、水や氷のある情景を抽象的に捉えた自然写真を20作品展示しました。写真家やキュレーターが32カ国から集まり、数々の個性豊かな作品からおおいに刺激を受けました。会期中の様子は秋野深フェイスブックページをご覧ください。 <https://www.facebook.com/jinakinophoto>

### ■秋田県にかほ市で講演・写真講座開催

11月14-15日に鳥海山麓の秋田県にかほ市にて「プロ写真家は見た・にかほの自然の魅力」講演会、写真講座・撮影会を開催。地元の方々に地元の魅力をお話するというあまり経験のない講演でした。市の観光課や観光協会をはじめ多くの皆様と新たな接点生まれ、私にとってもこの地域との距離感が縮まった気がします。講演の様子が地元の新聞にて報道されました。

秋田さきがけ新報：<http://www.jinakino.com/j/image/20141121.jpg>

### ■ディノスショッピングサイトで連載中

カタログ通販ディノスのオンラインショッピングサイトにて「写真家・秋野深のやさしい旅のフォトレッスン」を連載中です。早いもので連載も1年。来年も、旅の様々なシーンを想定したワンポイントレッスンを継続連載します。

★レッスン14:夜景やイルミネーションの美しさを表現しよう！

[http://www.dinos.co.jp/tabinchu\\_shop/column/photo/lesson14/](http://www.dinos.co.jp/tabinchu_shop/column/photo/lesson14/)

★レッスン13:料理の美味しさをリアルに伝えよう！

[http://www.dinos.co.jp/tabinchu\\_shop/column/photo/lesson13/](http://www.dinos.co.jp/tabinchu_shop/column/photo/lesson13/)

★レッスン12:秋の紅葉の色を鮮やかに表現しよう！

[http://www.dinos.co.jp/tabinchu\\_shop/column/photo/lesson12/](http://www.dinos.co.jp/tabinchu_shop/column/photo/lesson12/)

★レッスン11:旅先の通りの雰囲気を手前に表現しよう！

[http://www.dinos.co.jp/tabinchu\\_shop/column/photo/lesson11/](http://www.dinos.co.jp/tabinchu_shop/column/photo/lesson11/)

## Alt-Focus GRAPH 第4号スタッフ

### 飯島利枝子（取材・執筆）

今回の受講生作品展まで一か月と少し。私は二度目の参加です。写真を選び用紙や額を選ぶという作業ひとつひとつを、悩みながら楽しみながら進めたいと思います。

### 田口裕子（撮影）

私にとっては2回目の参加となるアルトフォーカス受講生写真展の開催が近づいてきました。この1年で少しは成長できたのでしょうか。自問自答の日が続きます（笑）。

### 山本玲子（取材・執筆）

秋野先生記事のバンドナ巻きの自分撮りが個人的にインパクト大でした。はやりの自撮り棒、一人旅のお供に一本と思いつつ一人でドヤ顔で撮る姿もどうかと購入迷い中です。

### 宮澤範子（撮影）

### 秋野深（監修）

10月の国際フォトビエンナーレで改めて痛感した大切なこと。「どうすればよいか」ではなく「どうしたいのか」。各国からの写真家たちが懸命にそれを模索していました。

表紙写真：「Bonne chance!(二人の未来に)」風間英美  
どこにもピントを合わせず、イルミネーションのボケ味だけで二人の姿を浮かび上がらせた独創的な手法が光る。

Alt-Focus GRAPH 第4号  
発行：写真教室アルトフォーカス  
発行日：2014年12月25日

<http://www.alt-focus.com>  
[alt-focus@alt-focus.com](mailto:alt-focus@alt-focus.com)